平成29年度第1回高崎市子ども・子育て会議 会議録概要

○ 日時 : 平成30年3月22日(木) 午後2時00分～午後4時20分

○ 場所 : 高崎市役所 本庁舎4階 庁議室

○ 出席者 : 別紙のとおり

○ 傍聴者 : 1人

○ 会議に付した案件

- ・ 幼保連携型認定こども園の設置認可について
- ・ 特定教育・保育施設の利用定員について
- ・ 高崎市子ども・子育て支援事業計画について

○ 配付資料

- ・ 次第
- ・ **資料3** 「高崎市子ども・子育て支援事業計画(平成28年度実績)」
- ・ 高崎市子育てなんでもセンターについて
- ・ 高崎市子ども・子育て会議委員名簿
- ・ 高崎市子ども・子育て会議事務局職員名簿

事前送付資料

- ・ **資料1** 「幼保連携型認定こども園の設置の認可について」
- ・ **資料1-2** 「幼保連携型認定こども園の設置の認可につき意見を聴くものに係る施設調書」
- ・ **資料1-3** 「高崎市幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準を定める条例(概要)」
- ・ **資料1-4** 「幼保連携型認定こども園の認可基準(子ども・子育て支援新制度ハンドブック(施設・事業者向け)平成27年7月改訂版より抜粋)」
- ・ **資料2** 「特定教育・保育施設の利用定員の設定について」

○ 会議録 : 別紙のとおり

○ 出席者（委員）：17名

番号	所属団体等	氏名	当日 出欠
1	高崎市区長会 副会長	飯野 茂	
2	認定こども園代表（高崎市保育協議会認定こども園部会長）	石井 博	
3	保育園代表（高崎市保育協議会保育園部会長）	粕川 泰彦	
4	高崎市私立幼稚園・こども園父母の会連合会	木暮 絵里花	
5	日本労働組合総連合会群馬県連合会高崎地域協議会 議長	越澤 恭行	
6	元教育委員長、あすなろ学童クラブ代表	小見 勝栄	
7	幼稚園代表（高崎市私立幼稚園・こども園協会 会計）	坂田 直樹	
8	公募市民	櫻井 礼子	
9	高崎市医師会 理事	重田 誠	欠席
10	高崎市母子等保健推進協議会 副会長	清水 恵美子	
11	高崎市学童保育連絡協議会 会長	鈴木 宏輝	
12	高崎市保育協議会保護者会 会長	関口 ゆかり	
13	高崎市民生委員児童委員協議会 主任児童委員連絡会 会長	高橋 式子	
14	高崎健康福祉大学 教授	千葉 千恵美	
15	高崎市心身障害者等連絡協議会 会長	深澤 アサ子	
16	高崎市小学校長会 倉賀野小学校長	布施 真優美	欠席
17	高崎市社会福祉協議会 会長	松橋 亮	
18	高崎市PTA連合会 常任理事	御供 直起	
19	公募市民	宮川 直子	

○ 出席者（事務局職員）：23名

○ 会議録

1. 開会 (事務局)	定刻となりましたので、ただいまから平成29年度第1回高崎市こども・子育て会議を開会させていただきます。
2. 委嘱状交付 (事務局)	はじめに、委員の皆様へ委嘱状を交付させていただきます。 (子育て支援担当部長から委員へ委嘱状交付) 本日欠席の委員さんには、改めて事務局から委嘱状をお渡しさせていただきます。
3. 委員の紹介 (事務局)	本日は、委員改選後第1回目の会議でございますので、委員の皆様へ一言、自己紹介をお願いいたします。 (各委員の自己紹介) ありがとうございました。
4. 事務局職員紹介 (事務局)	次に、子ども・子育て会議事務局職員の紹介を行います。 (事務局職員の自己紹介)
5. 議事1 (事務局)	<p>それでは議事に入ります。高崎市子ども・子育て会議条例第6条第1項により、会長が議長となることになっておりますが、会長が選出されるまでの間は、事務局で議事を進めさせていただきます。</p> <p>まず、議事の1「会長及び副会長の選出」を行わせていただきます。会長及び副会長の選出は、高崎市子ども・子育て会議条例第5条第1項の規定により、委員の互選によることになっております。委員の皆様のご意見はいかがでしょうか。</p> <p>(委員の互選により、会長に松橋委員が、副会長に千葉委員が選出される。)</p> <p>それでは、会長及び副会長に、就任にあたりまして一言ご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくをお願いいたします。</p> <p>(会長のあいさつ) どうもありがとうございました。 続きまして、副会長に一言ご挨拶をお願いいたします。 (副会長のあいさつ) ありがとうございました。以降の進行につきましては、会長をお願いいたします。</p>
(会長)	それでは議事を進めさせていただきますが、次の議事に入る前に、会議録署名人の指名をさせていただきます。このことについて、まずは事務局から説明をお願いします。
(事務局)	高崎市子ども・子育て会議運営規則第3条第2項により、「会長は、会議に出席した委員のうちから、会議録署名人1人を指名する」と定められております。
(会長)	ただいま事務局から説明がありましたように、私から指名させていただくこととなります。私からは、委員Aをお願いしたいと思います。委員Aには、当会議の会議録が完成し

	<p>ましたら、ご署名をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
<p>5. 議事 2 (会長)</p>	<p>次に議事 2「幼保連携型認定こども園の設置認可について」を議題といたします。今回、認可申請が 7 件提出されているとのことで、この申請の認可について協議することになります。このことについて、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(7 施設の設置認可について事務局から説明を行った。)</p> <p>事務局からの説明は終わりました。説明のありました 7 件の設置認可について、ご意見等はございますか。</p>
<p>(委員 B)</p>	<p>7 件のご説明をいただきました中の、何件かについて特記事項として、特に散見できるのが土地の賃借権の登記をしている、していないというのがいくつか見られましたけれども、このことについては、賃借権の登記を本来すべきものとしているのか、登記をしなくても運営自体は問題ないという判断なのか、そうではなくて今後必ず賃借権の登記をすることを前提として認めるという意味なのか、その辺のところは曖昧かなと思いましたので、ご説明いただきたいです。よろしくお願いいたします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>こちらの土地の権利についての認可にあたっての考え方ですけれども、こちらは自治体間で差があるところがございます。高崎市につきましては、安定的な施設運営というところで、賃借権あるいは地上権の設定を前提として、協議を進めていただきたいという考えであります。ただ、施設の間ではいろいろと諸事情がございます、なかなか進まないというところもあると聞いております。とはいえ、今後の運営の中で、どのようにしていけばいいかというお話になってくれば、出来るだけそれをするを前提として進めてもらう、そのようなお答えになるかと思えます。</p>
<p>(委員 C)</p>	<p>私も賃借権登記については、やはり公的な施設ですから、必ず必要だと思います。それと、仮に登記を拒否されたという事情は、もしかしたら転売、若しくはそういった事情を加味しているのではないかと。そしてお寺が長期間運営しているので安定的だといいますが、今、檀家さんが減り、お寺の運営も非常に難しくなってくる状況の中、お寺だから安定的に運営、賃貸借が遂行されるというのはちょっと違うのではないかなと思います。それともう 1 件、高崎保育所の園舎の築年数なのですが、昨年この会議の場でも耐震構造について意見を述べさせていただきましたが、今回も昭和 57 年新築とあります。私もちょっと調べましたら、新耐震基準法は 1981 年 6 月、昭和 56 年 6 月から新耐震基準、いわゆる地震が震度 6、7 にも耐えうる耐震基準になるということで、今回は昭和 57 年ということで、新耐震基準は、その 1 年前にはなっているのですが、これが新しい建築基準になる前に駆け込んで建築確認したものであって、完成が昭和 57 年ということは多々あるのです。ですから、もしこの建物が、全部がそうではないですけれども、耐震基準に満たない建物であると想定されるのであれば、必ずそれは耐震基準に満たす建物にしていきたいと。今、この建物が改装中、施設整備中だとなっているのですが、これはそういった耐震基準の施設準備中であるのでしょうか。</p>

(事務局)	この施設整備に関しては、既存の施設ではなく、既存の施設の横側に増築ということで、施設を建てているものがございますので、昔の施設を直しているということではありません。
(委員C)	わかりました。おそらく大丈夫だろうと思うのですが、一応念のために、それはチェックしていただいた方がよろしいかと思えます。以上です。
(会長)	<p>他にございますか。よろしいでしょうか。</p> <p>以上で、今回申請のありました7件の審議は終了しましたが、全ての申請について本会議で了承することといたします。以上で幼保連携型認定こども園の認可に関する調査審議についての協議を終結いたします。</p>
5. 議事3 (会長)	<p>次に議事3「特定教育・保育施設の利用定員について」を議題といたします。このことについて、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(利用定員の設定について事務局から説明を行った。)</p> <p>事務局からの説明は終わりました。認定こども園10施設、幼稚園2施設について、それぞれ利用定員を設定したいとのことでございますが、委員の皆様からご意見やご質問などはございませんか。</p>
(委員B)	櫻丘幼稚園さんの定員について、3号認定の0歳の子の定員が0となっております。幼稚園型の幼稚園は、設定がないということなのでしょうけれども、櫻丘幼稚園さんの3号認定、0歳児が0ということについては、特に問題はないという判断でよろしいのでしょうか。それともう1点、資料の中の中川幼稚園さんですけれども、備考を見ますと、入園希望者数増加による定員変更ということで、2号認定と3号認定が少し増えてということで、利用定員数が200人ということのようですが、参考の認可定員を見ますと、320人だったところが200人となるということなのでしょう。その辺がちょっとよくわからないのですけれども。変更前のこの数字を足すと320人になるのでしょうか。ちょっとこの辺についてご説明をいただくとありがたいかなと思えますが、よろしくお願いたします。
(事務局)	<p>まず1点目の櫻丘幼稚園の3号の利用定員、0歳の子が0人ということでございますが、特に0人であるからいけないということではないと思えます。ただ幼保連携型認定こども園になるということは、0歳児を受入れるという意志を持っているということでこちらは考えておきまして、翌年度以降そちらにつきましては受入れてもらうように、市として求めていくつもりでございます。</p> <p>ご質問の2点目、中川幼稚園の件でございますけれども、こちらも大変表が見つらく、分かりづらく、大変申し訳ございません。こちらの中川幼稚園につきましては、利用定員につきましては190人から200人、10人の増となっております。右側の部分につきましては認可定員でございまして、先ほど私の説明の中で、認可定員と利用定員はイコールであることを前提に事務をすすめさせていただくということがございますので、この</p>

機会に利用定員にあわせて認可定員の方も変更させていただいたということでございます。

(委員C)

また高崎保育所についてなのですが、園庭面積が認可する園庭面積に満たないというお話がありました。今回は満たないため特例を使って認可するということなのですが、それに利用定員が115名というのはちょっと違うのではないのかと思います。園庭面積は、地域性等もあって、場所が街場ですからあまり広い場所が確保できない、だけど定員は他の園から比べると少し多い、確保したいというのはどうなのかなど。先ほどの借地の件もありますので、だとすれば特例も設けますけど、利用定員に関しては見直した方がいいのではないかという意見でございます。よろしく願いいたします。

(事務局)

お答えいたします。それぞれの子どもをお預りする施設、認定こども園や保育園はそれぞれの施設整備の基準がございまして、認定こども園につきましてはこういった基準、保育園についてはこういった基準というものがございまして、高崎保育所については保育園からいわゆる認定こども園になるということですので、保育所から移行の特例というものがございまして、その特例というものは保育所基準に合わせたときの広さがどうかというところでございまして、そうしますと、高崎保育所115人の利用定員でそれぞれの年齢の区分によって必要となる面積が決まってくるかと思うのですけれども、それを保育所基準で考えた時には全て保育所としての認可が受けられるという状況でございます。そういった、いわゆる認定こども園になる施設については、既存の施設から移行することが多いことも国の方で考えていたところで、特例を設けて認可をすると状況があるところですので、高崎市もそのようなものを利用させていただきまして、認可に至ったということでございます。

先ほど、中川幼稚園の関係のご質問がございました。認可定員320人、それが200人というような数字を聞きますと、120人も減るといった感じになると思います。もともと県の方が認可をする時、認可というのは施設にどれだけの子どもが収容できるかということで、数を出しております。教室の数がいくつあるから、その部屋の中に子どもが何人面倒見られるので、それで何人。これは320人まで受け入れられる施設、認可というのはそこまでの認可ですよという人数が示されております。この新制度に移行するにあたって、それはその大きさというのを持っているのだけれども、実際に子ども達は200人程度受け入れているということであると、改めて認可という、施設が持っている容量ではなくて、実際に利用している利用者の人数で定員を表しましょうということですので。これはちょっと幼稚園からこども園や保育所が変わるときに、若干違いが出てきまして、それなので大きく変わってきております。以上です。

(委員D)

この子ども・子育て会議につきましては、議論の一番の目的として高崎市の子ども達の需要と供給の体制がマッチングしているのかということの有識者などで議論する会議だと思っております。今日のいろいろな種類の資料がありますが、資料2の利用定員一覧が一番肝になるところだと思います。資料にあります施設の種類の最終的な合計を見ますと、利用定員が前年比4月1日現在の前と後での増減をいうと、854名ということ

	<p>で、ものすごく数字が増えているようで、何やら供給過剰なような様相を呈しているようなのですが、実際のところ、高需要である3号の増加は85人なのですね。また、気になったのは幼稚園型での1号が445人ともものすごく増えているところで、今1号は、こんなに増えるべきなのだろうかという疑問が湧きました。幼稚園利用はなぜこんなに増えたのかということが素朴な疑問と、3号認定を中心としたバランスが、今の段階ではどういう途上であるのか、将来どうするべきかという感想があれば、結論でなくていいのですけれども、行政のお考えをいただければと思います。お願いします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>3号認定の85人増について、どのように考えているかについてでございますが、現在、3号、0、1、2歳の需要が非常に多くなってきており、そこに対応するためのキャパを用意することが喫緊の課題であるところも考えております。そのために各施設に施設整備も踏まえながら、定員の増をお願いできないかということでご協力を仰いでいるところでございます。そのような中で、本年度は85人増ということでございますが、引き続き各施設に協力をお願いさせていただき、そこでは施設整備等に係る補助も積極的に進めさせていただきたいと考えているところでございます。</p> <p>また、続いて幼稚園の1号認定の445人増の部分についてでございますが、この資料につきましては、27年度から現在まで新制度に移行した施設に係る定員でございますので、現在も私学助成を受けて運営されている幼稚園については計上されていないということになります。実際に高崎の子どもさんを受入れる枠としてはあったわけなのですが、この資料に取り込みがなかったものが、移行に伴って今回増えてくるものでございます。</p>
<p>(会長)</p>	<p>他にございませんか。</p> <p>それでは特定教育・保育施設の利用定員の設定については、事務局案のとおり本会議で了承することといたします。以上で特定教育・保育施設の利用定員の設定についての協議を終結いたします。</p>
<p>5. 議事4 (会長)</p>	<p>次に議事(4)「高崎市子ども・子育て支援事業計画について」を議題といたします。本計画は、平成27年度から平成31年度までの5年間を計画期間とした計画でございますが、このことについて、事務局から説明をお願いします。</p> <p>(高崎市子ども・子育て支援事業計画平成28年度進捗状況について、事務局から報告を行った。)</p> <p>事務局からの説明は終わりました。委員の皆さまからご質問やご意見等ございましたら、お願いいたします。</p>
<p>(委員E)</p>	<p>今、13事業ということで、もう少し幅広い13事業まで広げた話を是非この場でやっていただきたいなと非常に思います。特に学童保育は、本当に子育てという中では大変重要な要素であると思います。特に少子化でありながらも、需要はどんどん増えております。どこの学童もいっぱい、悩みを大変抱えております。施設が足りない、従業員である支援員が足りない、給与が払えない、本当に様々な深刻な問題を抱えているのですけれども、</p>

何とかやっているというのが現状ですので、もちろん認定こども園のお話など大切だと思いますけれども、少し幅を広げていただきたいなという思いがあります。

それから2つ目の提案は、子育ての事業に作業療法士の制度を取り入れてもらいたいと思っております。外国では、作業療法士という職業は、主に学校に勤務をしているというケースが多いです。日本ではほとんど病院に勤務をしているのですけれども、理学療法士がやるリハビリとは違って、発達障害に対する支援を行うのですけれども、リハビリとか、学校だとソーシャルワーカー、スクールカウンセラーもおりますが、そういった方々と違うのは日常生活の補助を行うということで、非常に子どもさんの手助けになっているというケースで、実は他の自治体で取り組んでいる例があります。学童保育に取り組んでもらいたいというのが本心ですけれども、今日は教育委員会からも来ていらっしゃいますので、学校関係にも是非広めてもらいたいと思います。端的にいうと、福祉、障害児に対する支援というような考えのように聞こえるかもしれないですけれども、学童については専門家といいますか、対処できるという資格も制度も、人材もほぼありません。全くの素人が何とかやっているというのが現状です。そんな中で、専門家、特に作業療法士さん等に現場に入っていただくことで、とりわけ学童保育運営が助かるかと思っておりますので、その辺は是非お願いしたいなと思います。学童保育だけに限らず、子どもの教育現場に作業療法士を導入したいという思いをお願いします。

3つ目ですが、3号認定こどもの需要があるということで、資料の数字を見ていると、実際には需要が供給に間に合っているという印象があるのですけれども、私の周りで聞いている感じではとてもそのようなことを感じないのですね。希望する保育園には入れなかったり、妊娠をきっかけに仕事を辞めざるをえなくなり、再度働きたいといっても仕事をしていないから保育園に入れないという話を聞きます。この基準は何とか外してもらいたいと思います。隠れ待機児童という表現をよく言いますが、決して隠れているわけではないと思います。一般の大企業みたいに、産休・育休をしっかりと取れるということはそんなにないために、0歳、もしくはパートで働いているような人が赤ちゃんを産むことに非常に不安を抱えています。そこを解消するのが政治だと思いますので、そこまで目を向けたお話をしていただきたいなと思います。

(委員F)

昨年、放課後デイサービスの必要がある子を紹介して入れようと思ったら、いっぱいですということで、利用するのが難しいという印象を受けました。放課後デイサービスが何ヶ所あって、どのくらいの人が利用しているのかというのを、ちょっと教えていただければと思います。

また、学童保育の話をさせていただきますと、支援員の先生が集まらないというような現実が沢山起こっております。この辺を何とか解消したいと思います。また、最近ですけれども、小学校の先生で退職なさった方が学童の支援員に希望をする人が何人か出てきたという、新しい流れが起きておりますので、是非、教育委員会とこの子育て支援の課と連携をとりまして、そういう支援員になってもいい先生の調査のようなものをしていただいて、何か教えをいただけるようなシステムを是非考えていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

(事務局)

お答えさせていただきます。まず放課後児童クラブにつきましては、本当に毎年利用児童数が増えている状況でございまして、施設面の課題、また子ども達をみる支援員さんの課題等、いろいろなものがあります。施設面につきましては、空き家の活用を含めまして、適切に対応していきたいというところございまして、また支援員さんがなかなか定着しなかったり、新しい人が見つからないという中で、来年度から、これまでの支援員さんの処遇改善事業の拡充を図って、少しでも支援員さんが定着、また新たな確保ができるような取組みを進めているところございまして。また、教育部局とも連携を引き続き図りながら、進めていきたいと考えております。また、委員Hさんの方からお話をいただきました作業療法士さんにつきましても、貴重なご意見として今後どのように活かせるか検討して参りたいと考えております。

また、こちらの13事業以外の様々な事業についても、こちらの会議でということでしたけれども、本計画が31年度までとなっております、32年度以降の次期計画を来年度以降検討する際に、様々なご意見を伺いながら、また事業の状況等を把握しながら、検討やご意見をいただきまして、進めて参りたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

また、放課後デイサービス事業についてですが、この制度が出来まして、もう数年経ちまして、現在高崎市内に50数ヶ所出来ております。その内、児童発達支援ということで、就学前の児童発達の事業所が5つございます。指定は県が行っておりますが、障害福祉サービスとして、児童発達支援や放課後デイサービスの支給決定は市役所の障害福祉課というところで行っております。就学以降の放課後児童デイについては、小学校1年生から18歳まで使うことができ、そういった事業所は年々増えております。お子さんの支援については、計画相談ということで、そのお子さんも生活全般を見て、どんな支援が必要だろうかということがありまして、相談支援事業所というものもありまして、そこの支援員さんが付いてくれて計画を立てるのですね。そういった中で一緒に、放課後デイサービスを使ったらどうかというような、綿密な計画の中で、お子さんに本当にあった支援となるように、関係機関一同、努力しておりますので、ご理解いただきたいと思ます。

それから作業療法士なのですけれども、本当に素晴らしいご意見だと思います。発達に課題があるということは、認知面だけではなく、運動協調性の問題や不器用だとか、それからいろいろな面がありまして、こども発達支援センターの職員としても必要な職種なのですね。発達支援センターが教育現場や学童の方へ、どれくらいOTとしてご協力できるかというのは非常に難しい問題なのですけれども、ただ研修等の中でお声がけいただければ、検討させていただける部分もあるかと思ます。本当に障害があるないということではなくて、OTの果たす役割というのはお子さんの成長には非常に重要なことだと考えておりますので、いろんな分野で活躍していただけるとありがたいなと思ます。本当に良いご意見をいただき、ありがとうございます。よろしくお願いたします。

次に、入所の関係をお答えさせていただきます。3号認定こどもの人数は、なんとか施設さんにご協力をいただきながら、年々増えている状況でございまして。その中で、一度辞職された保護者の方のご要望に関してですが、休職をされている方でも要件がないわけではないので、お受けしてご相談の上、入れる場合についてはご案内をさせていただくわけですが、実態として、実際にお仕事をされている方と比べて入りづらいということはある

かと思えます。そのようなことを踏まえ、また地域のバランスなどからなかなかうまくいかないところもありますので、新年度におきましては、そういったところに対応できるような施設整備等にも取り組んでまいります。そういったところを進めながら施設の方にもご協力をいただき、一人でも多くのお子様にご利用いただけるような体制を整えていけるよう、取り組んでいきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(委員G)

今回2月に虐待の問題が出まして、お母さんが子どもを育てられないということでした。この場合、母親が妊娠中に既に育てられないということを訴えていました。それを受けて妊婦検診のところでその下の養育支援訪問事業、産まれた後の対応、子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業、ここを上手くリンクさせながら対応することで、お母さんの状況やその次の段階の施設の入所措置や、またその上の子育て延長活動支援事業、こことリンクさせて対応することがもしかしたら必要だったのかなという気がしました。13事業として非常にいい支援事業がこれだけ出ているので、それらを上手くリンクさせながら対応することでいいかたちになったと思います。このリンクを是非お願いしたいなと思いました。

(事務局)

貴重なご意見をどうもありがとうございます。今回のお子さんの場合は、2ヶ月になったばかりということで、産まれる前の健診では市としても同行しておりましたし、産まれた後も家庭訪問等もしておりました。そういったセンター等の利用についてはこれからという時期だったのだと思います。具体的には、母子手帳を交付する時に健康相談室がございまして、お一人おひとりに面談をしながら、不安な事などを伺いながら出来るだけ丁寧に聞き取りをしながら相談対応をしております。その中で育てられないという話を伺いましたので、すぐにこども家庭課に繋げまして、特定妊婦ということで健診等にも一緒に同行したりということで、携わっていたという経過がございましたが、残念な結果に終わってしまったということでございます。大事なのが一番最初の妊娠届出の時です。ここでは、本当に丁寧に対応をし、お一人おひとりの妊婦さんがこれからの子育てを不安なく出来るように行っております。後は産まれてからになりますので、産まれた後は新生児訪問という事で助産師や保健師が訪問しております。その中で産後鬱の方も多いのでその訴えも聞きとりながら、連携を図り対応して参りたいと考えております。これからも関係各機関で連携をしながらこのようなことのないように努めてまいりたいと思っております。ありがとうございます。

(委員I)

地域支援事業の中の子育て短期支援事業と病時・病後児保育事業についてなんですけれども、量の見込みと実績の数を見ますと、トワイライトステイ見込み100人とありますが、実績0とここの資料にあります。また、ショートステイの見込み150となっているところ、実績38となっております。利用者が0という現状をどのようにお考えでしょうか。

また、病児・病後児保育の見込み2,300のところを4,514人利用ということで、見込み数よりも利用者ニーズがだいぶ多いですけれども、これは要するに例えば、緊急で預けたいという利用者さんの利用状況はどのようなのか、また、来年度以降、利用者さん

<p>(事務局)</p>	<p>が多いということに対してどのようなことをお考えでしょうか。お願いいたします。</p> <p>トワイライトステイの28年度実績が0人であることについてですが、トワイライトステイとショートステイというものが利用者さんからの申請に基づいて行う事業となっております。トワイライトステイについては、夜間お仕事等でお子さんのお世話が出来ない方に関してお子さんを預かる制度となっております。27年度実績は、夜間通常夜9時までお仕事をされる方がいらっしゃいましたのでその方の利用があったのですが、28年度については、その方もお仕事がもう少し早く帰れるようになったということで、28年度の実績については0となっております。市内、児童養護施設3箇所と契約を結んでおりまして対応はしていただいているので、28年度は利用希望がなく、0というようになっておりますのでご了解いただければと思います。</p> <p>次に、病児・病後児保育の関係ですけれども、この事業は、子どもさんが急な発熱等で保育所に預けられない場合、親御さんがそれでもお仕事などでどうしても休めない場合に利用していただくものでございます。また、保育所に預かっている間に体調が不良になったお子さんに、お部屋の方で一時的に安静にお迎えを待つていただくといった取組みを行っている施設の数、ないしそこを利用したお子さんの数のことですが、平成28年度は、病児施設の数が増えたことから、利用のお子さんの数が増加し、比較してこの数字が多くなったところがございます。ここに関しましては、急な発熱だけれども預けたいというニーズが多くなっているということがこの数字から認識されるところでございます。これからもニーズが増えていく見込みの中で、各施設における取組み数を増やしていくという考え方で対応させていただきます。以上でございます。</p>
<p>(委員B)</p>	<p>延長保育事業が見込み2,100人に対して、毎年762人という数字は、随分少ないというように感じます。たまたま28年度だけ少ないかと思うと、27年度から微増ということから考えますと、見込みの2,100人51か所というのはどうなのだろうかと思えます。次の計画の中にはこのくらいを見積もってという思いなのかそうでないのかその辺をご説明していただけるとありがたいと思います。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>延長保育についてでございますが、過去の内容からの見込みの捉え方といたしましては、26年度当時に延長保育の補助事業を活用して実施している施設の数、また、それを利用した人数ということで出させていただきましたが、27年度新制度になった際に延長保育にかかる補助の内容・制度が変わり、運営費の中に入り込まれてしまったということから補助の申請をしない施設がいくつか出たということがございます。ただ、この表の中に当てはめるには、補助の申請をした施設ないしそれを利用した子どもさんの数しか把握が出来ないものですから、そのように記載をさせていただいております。ですから、この数字以外にも数字として出てこない利用されている子どもさんの数があるということをご理解いただければと思います。ただ、次の計画の際には、どのような表現や数字にしていくかということについては検討させていただければと思います。</p>
<p>(委員I)</p>	<p>30年度から放課後児童クラブの役員になることが決まりまして、3月から会議に出席</p>

しておりますが、やる事が多くて唾然としております。他の市町村がどのように学童クラブと関わっているかというところまで、まだ私は全然把握しておりませんが、すごく大変かなという印象を受けておりますので、市との連携の中で、少しでも活動を楽にできればいいなと感じております。

それから、1月に入りまして次々と子ども達がインフルエンザにかかりまして、特に下の子は長い間休みをとらなくてはならない状況でしたが、休みが取れない状況から、病児保育の施設2件にあたりましたが、何日も先まで予約が埋まっている状況でした。最後の1日だけ病後児保育の「ありんこ」を使って見てもらうことができましたが、仕事の時間とあわせると足りなくて、なんとかやりくりをしたということがありました。

それから、妊婦健康診査の話が出ましたが、是非妊娠届けの届出の時点での聞きとりも大事ですが、産婦人科に見える妊婦さんの中には「あれ」と思われる方も時々お見かけします。病院からの声を拾っていくというか病院からももっと声を出してほしいといったメッセージを伝えれば、発見に繋がるのではないかと感じました。以上です。

(事務局)

放課後児童クラブの保護者の方のご負担についてですが、委員さんからいただいたようなご意見は度々お聞きする事もあり、こちらといたしましても保護者の方のご負担を少しでも少なくするように、たとえば書類の簡素化ですとか会計関係の事務を別のところに依頼するですとか、そのような形で皆様のご負担をできるだけ少なくする事は考えております。今後も皆様のご意見をお聞きしながらご負担を少なくするように努めてまいりたいと思っております。

次に、妊婦さんの関係についてですが、本当に大変な妊婦さんについては病院から連絡が参ります。もう少し手前と言いますか軽い患者さんでも病院から広くご報告をいただけますと、もう少し広く関われると考えておりますので、医師会とも話し合いを持ちまして、できるだけ連携を強化していきたいと考えております。ありがとうございます。

(委員J)

虐待の現状についてお聞きしたいと思えます。何かあるとすぐ児相は何をしていたのだという話になりますけど、どの時点でどの課に行って、どこからが児相に行くのかを教えていただければと思えます。一人の方に関して2ヶ月ですべて解決できるかといわれればそれはほとんどないわけで、その中で、長い間の中で担当が変わってしまって引継ぎが上手くいかなかった場合とか、課から課へ移る段階でうまくいかない場合ですとか沢山あると思えます。やはり、そういった被害にあっている方やもしくは自分が手を出してしまう親達というのは、やはり精神的に安定していないので、合う合わないということをすぐに言ってこられるかと思えますが、その中でどのような対応ができるか、このような場合はここへ、そのような場合はそこへということを知っていただいて、今日来ていただいている方は、幼稚園関係、保育園関係、医療に従事されている方もいますが、いろんな方にそういった状況をしっかりと伝えていくことで、ちょっとしたことにも、もう少し皆さんが気づけると思えます。実際、今の状況で担当課同士どのような形で繋いでいるのか、例えばこうなったら次の課に行くとかその他にトータル的に見ている方がいるのかを少し教えていただきたいと思えます。

<p>(事務局)</p>	<p>虐待の現状という事ですけれども、虐待の通告先というのが市と児童相談所と2つになっております。高崎市役所でも法律に基づきまして、虐待の通告ということで子ども家庭課の方で対応させていただいております。課と課の連携という事でお話をさせていただきましたけれども、そちらのほうは関係課で関わっておりまして、心配な妊婦さんですとか心配なお子さんですとかそういったお子さんを発見した場合には、子ども家庭課の方に連絡をいただきまして、子ども家庭課と関係機関で連携をして家庭側の様子、子どもさんの様子、場合によっては学校や病院に出向いてお話を伺ったりして対応をさせていただいております。その中で専門的な指導が必要な時、たとえば一時保護ですとか、今後施設の入所が見込まれるですとか、そういった場合になった時点で子ども家庭課の方で関係機関と協議をして児童相談所に連絡をさせていただいているという状況でございます。また、先ほど産婦人科さんのほうから病院で気になるお子さんがいた場合の連絡につきましても、平成29年度は児童相談所と子ども家庭課のほうで一緒に市内の産婦人科さんを回らせていただいて、気になるお子さんがいた場合には子ども家庭課もしくは児童相談所に連絡していただくというようにお願いをさせていただいているというような状況でございます。</p>
<p>(委員H)</p>	<p>地域の中に主任児童委員というものがおります。本当に専門的なことが必要な場合は専門職の方をお願いをしますが、やはりご近所で心配な事があるとか、虐待とは限らず見守りが必要な子には私たちが地域で見守るという役割となっておりますので、児童相談所や子ども家庭課に通告というところまでいかない部分についても見守りというところでは地域で対応しております。その際にも、学校や幼稚園、保育所、放課後学童保育の方とも相談しながら見守るというところに関わっているところであります。</p>
<p>(会長)</p>	<p>他にないようでございますので、以上で、本日予定していました議事は終了いたしました。審議の円滑な進行にご協力いただきましてありがとうございます。以上で進行を司会に戻したいと思っております。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>ありがとうございました。会長におかれましては、スムーズな進行をさせていただきましてありがとうございます。</p>
<p>6. その他 (事務局)</p>	<p>続いて次第の6「その他」といたしまして、子育てなんでもセンターの概要と実施につきまして簡単にご説明させていただきます。 (子育てなんでもセンターの概要と利用実績について事務局から説明を行った。) 説明は以上でございます。</p>
<p>7. 閉会 (事務局)</p>	<p>以上を持ちまして、本日の会議は全て終了いたしました。 なお、今回使用いたしました資料番号の1-2、1-3、1-4の資料につきましては、個人情報等のことがありますので、そのまま席上においていただきますようお願い申し上げます。 それでは以上をもちまして、平成29年度第1回高崎市子ども・子育て会議を閉会させていただきます。</p>